履 修 要 項

２０２２年度

（看護学科４年生向け）

三育学院大学

目　　次

１　看護学部のめざすもの …… 1

２　看護学部の３つのポリシー …… 2

３　カリキュラムの構成 …… 4

４　看護師課程カリキュラム …… 7

　　保健師課程カリキュラム …… 10

５　卒業要件について …… 13

６　単位の計算方法 …… 16

７　履修登録について …… 16

８　履修登録の手引き …… 17

９　授業について …… 21

１０　試験・成績について …… 22

１１　４年次開講科目及びシラバス…… 25

～ 各科目のシラバスについて ～

本履修要項に記載されている各科目のシラバスは、今後の新型コロナウイルスの状況によっては予定が変わる可能性がございます。

あらかじめご了承いただけますよう、お願いいたします。

1　看護学部のめざすもの

看　護　学　部　長
村　上　　寛

三育学院大学看護学部は、１９２８年に日本におけるキリスト教の愛の宣教に使命を感じた米国人クリスチャンドクターとナースたちによって看護師養成所が開設されました。以来、90 余年間聖書を土台とした看護教育を行っています。その間、看護教育は一貫して全人的回復を目指す看護〔ホリスティック・ナーシング(Wholistic Nursing)〕を理念として、神と人々に仕える看護職者を世に送り出してきました。

全人的看護（ホリスティック・ナーシング）とは、看護を行う者とその看護を受ける対象者が、共に人間の尊厳の回復と維持、心と身体と霊の調和のとれた健康を目指し、知性、身体、霊性の統合体としての人間の全体的な回復を支援する具体的な看護のことを意味しています。

看護学部では、全人的看護を実践できる看護職者を育てるために次の３つのことを大切にしています。

第 1 は、神の愛を学ぶことを通して、自己と他者の価値と尊厳を認めることのできる豊かな人間性を育成する。

第 2 は、物事を論理的に考える思考力をはぐくみ、問題を主体的に取り組むことのできる看護専門職者を育成する。

第 3 は、自ら健康的な生活を実践するとともに、他者もこのような実践ができるよう支援する看護職者を育成する。

これらの教育目標をもとに、看護学部は、学生が自ら考え、主体的に学習に取り組むことができるように、多様な学習内容や方法からなるカリキュラムを構築しています。

私達を取りまく社会は、少子高齢化がさらに進み、高度医療の進展、在宅医療へのシフトなどと激変しています。そのため医療だけでなく、介護・福祉分野とも密に協力連携し、これらの変化に対応できる高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた看護専門職者が希求されています。

卒業までにこのような社会の期待に応えるために必要な能力を身につけてください。そのために、履修要項をよく読み、予習復習を含め、学修計画をたてて、効果的な学修を進めてください。教員はそれぞれオフィスアワーを設けていますので、積極的に助言を求め、実りある学びにつなげることを願っています。

２　看護学部の『３つのポリシー』

【ディプロマ・ポリシー】

三育学院大学における教育の理念は、設立母体であるセブンスデー・アドベンチスト教団のキリスト教の精神に基づき、聖書の示すところの人間の「全人的回復」にある。この理念のもと、神をすべての価値の源として真理を探求し、自己と他者の尊厳を重んじ、より良い社会の形成のために貢献できる看護専門職者を育成することを目的とする。

その目的の実現のために以下の能力・資質を備えている学生に学位を授与する。

１．人間の尊厳を尊重し擁護する能力
２．科学的根拠に基づいて、全人的看護（ホリスティック・ナーシング）を実践する能力
３．看護専門職者としての倫理的態度
４．看護の対象に関わる人々や保健・医療・福祉における多職種と連携協働できる能力
５．異文化を理解し国際看護に貢献できる能力
６．自己の健康を管理する能力
７．生涯を通して看護の現象について探求し自己研鑽する能力

【カリキュラム・ポリシー】

本看護学部では、ディプロマ・ポリシーの達成のために以下の方針でカリキュラムを編成する。

（教育内容）

１．看護専門職者として、個人、家族および地域の健康に貢献できる豊かな人間性の育成のため、キリスト教科目を各学年に段階的に配置する。
２．カリキュラム構成は教養教育科目、専門基礎科目、専門教育科目の３つの区分と以下に述べる 17 の群から成る。具体的には、教養教育科目（6 科目群 40 科目）では、＜アドベンチストの信仰と生活＞＜人間の理解＞＜文化・社会の理解＞＜情報科学＞＜自然の理解＞＜語学の修得＞、専門基礎科目（2 科目群 16 科目）は、＜人間と健康＞＜健康と環境＞、専門教育科目（9 科目群 61 科目）は、＜基礎看護学＞＜地域看護学＞＜母性看護学＞＜小児看護学＞＜成人看護学＞＜老年看護学＞＜精神看護学＞に加え、＜看護の発展科目＞に区分

し、3 年次からは保健師課程を選択した場合、＜公衆衛生看護学（10 科目）＞を加えた区分編成となっている。

３．本学部の特徴的な教育として、スピリチュアルケアの科目を設置し、自己と対象者の理解を深める。また、国際性を養うための体験学習型海外研修や、国際看護実習を設けている。

４．人間としての成長をはかるために宗教教育・労作教育・寮教育を取り入れている。

（教育方法）

１．授業では、予習・復習の時間を確保し、講義・演習・実習などの多様な学習形態を通して展開する。

２．主体的な学ぶ力を身につけるために、グループワーク、ディベートなどの学修方法を取り入れる。

【アドミッション・ポリシー】

本看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次の資質を備えている学生を求めます。

１．人と関わることに喜びを見出すことができる人

２．本学の目指す全人的看護に関心があり学ぼうという意欲のある人

３．誠実で基本的な倫理観を備えている人

４．自己の健康と生活習慣を管理する意識がある人

５．探求心があり主体的に学習でき、入学前教育に積極的に取り組む意欲がある人

３　カリキュラムの構成

カリキュラムは、Ⅰ．教養教育科目、Ⅱ．専門基礎教育科目、Ⅲ．専門教育科目の３区分で構成され、３区分の下位に１６科目群１０７科目があります（保健師課程は１７科目群１１７科目）。図 1 にカリキュラムの概念モデル、表 1(1)～表 1(4)　にカリキュラム表を掲載していますので参照してください。

Ⅰ．教養教育科目（６科目群４０科目で構成）

《アドベンチストの信仰と生活》

人生の身近な問題を考え、語り合い、礼拝やアセンブリーでの特別講演などを通して、キリスト教を土台とした幅広い人間観を学ぶ科目群（１２科目）です。

《人　間　の　理　解》

看護の対象となる人々をより広く理解するために、人間やその行動を科学的かつ全人的に捉える方法の基礎を学ぶ科目群（５科目）です。

《文化・社会の理解》

日本の歴史や文化・社会・経済を学ぶだけでなく、外国の歴史や文化・社会を学び、異文化に身を置くことによりグローバルに物事を考える姿勢を学ぶ科目群（８科目）です。

《情　報　科　学》

受け取った情報をもとに物事を論理的に考え、分析し、相手に伝える技術を学ぶ科目群（４科目）です。

《自　然　の　理　解》

看護と関連がある自然界の諸現象を学問的に理解し、ならびに自然環境を大切にする姿勢を学ぶ科目群（４科目）です。

《語　学　の　修　得》

英語や韓国語の読む力・書く力・話す力を修得するための科目群（７科目）です。

Ⅱ．専門基礎教育科目（２科目群１６科目で構成）

《人　間　と　健　康》

人間の体と心の仕組みを理解するとともに、健康の維持増進、健康障害の原因や疾病の病態・治療について理解することを目的とする科目群（１２科目）です。

《健　康　と　環　境》

変動する現代社会における保健医療福祉問題をみつめ、保健医療福祉に関連す

る法律や制度を理解し、共に生きることを基点に、生活者としての人間に対する支援のあり方を学ぶ科目群（４科目）です。

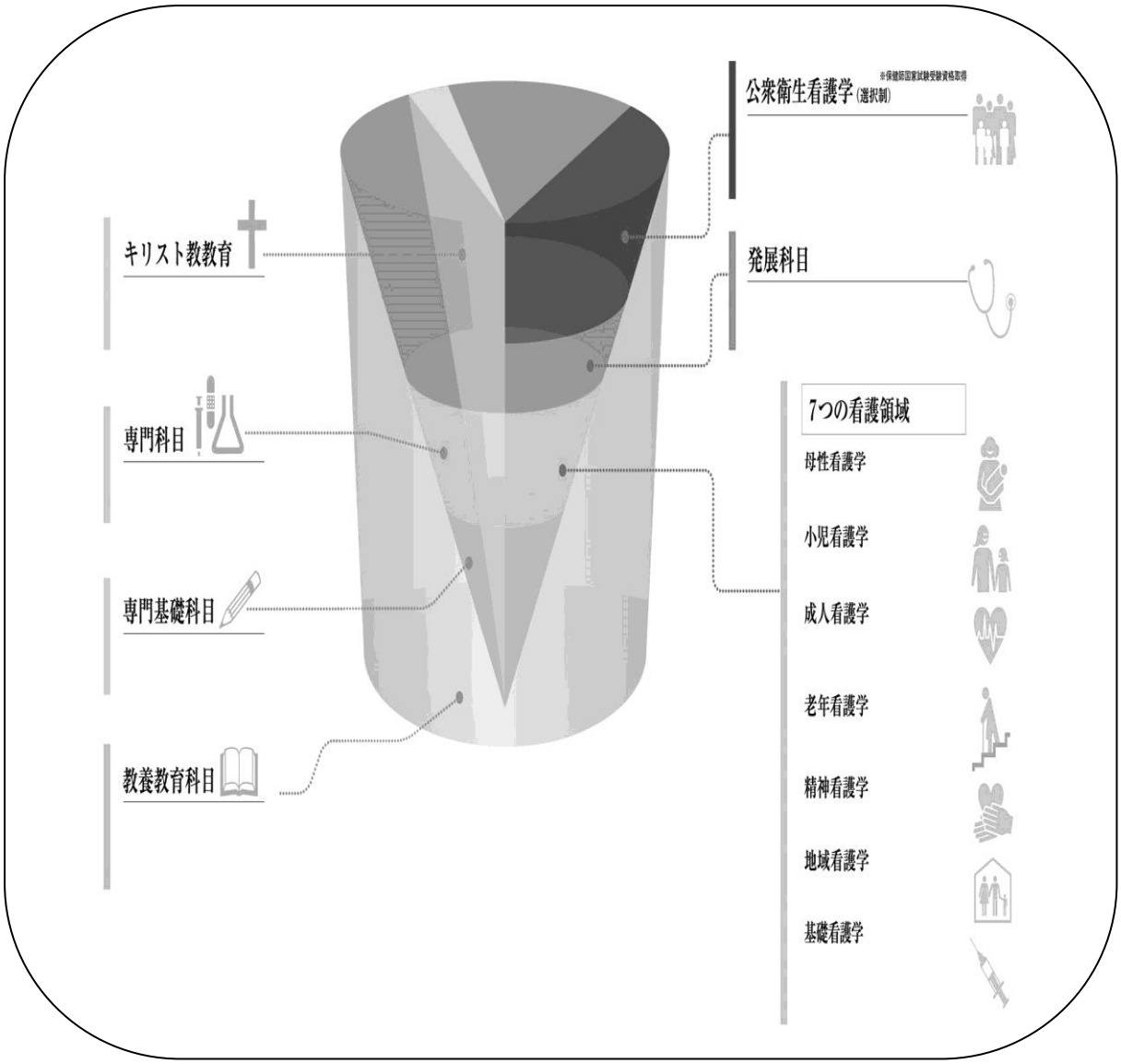
Ⅲ．専門教育科目（９科目群６１科目で構成）

【看護師課程】

８つの専門領域で構成されています。すべての看護領域に共通した基盤となるのは《基礎看護学》１１科目です。そして、看護の対象となる人間の成長発達段階や健康レベル、生活の場の特性に応じて、《地域看護学》６科目、《成人看護学》６科目、《老年看護学》４科目、《小児看護学》４科目、《母性看護学》４科目、《精神看護学》４科目があります。さらに、専門領域での学びを深め、また、卒業後に看護を発展させていくことができるような科目群である《看護の発展科目》１２科目より構成されています。

これらの科目の中には多様な看護実践の場や基礎的な看護技術を体験する基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域実習から始まり、成長発達段階や健康レベルに応じた各領域別実習、さらに４年次前期には各領域での看護の学びを統合し、より高い看護実践能力を修得する総合看護実習が行われます。この他に、本学の特徴でもあるアジアの国々で行う国際看護実習（選択科目）が３年次８月にあります。

図１　　カリキュラム概念モデル



4　看護師課程カリキュラム

表1-(1)

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4		◎							
		ﾐﾆｽﾄﾘｰ　ｵﾌﾞ　ﾋｰﾘﾝｸﾞ		2				○				
		アセンブリーⅠ	1		◎							
		アセンブリーⅡ	1				◎					
		アセンブリーⅢ	1						◎			
		アセンブリーⅣ	1								◎	
		キリスト教倫理		2			○					
		キリスト教音楽		1	○							
		ＳＤＡ教会史		2								○
		ﾊﾟｰｿﾅﾙ　ﾐﾆｽﾄﾘｰ		2								○
		ｸﾘｽﾁｬﾝ　ｻｰﾋﾞｽ		2								○
		現代とｷﾘｽﾄ教		2					○			
	人間の理解	哲学		2	○							
		心理学		2	○							
		人間関係論	2		◎							
		教育学		2	○							
		スポーツ科学		2	○							
	文化・社会の理解	社会学		2	○							
		文化人類学		2				○				
		歴史		2		○						
		経済学		2	○							
		異文化演習		1			○					
		美学		1		○						
		日本国憲法		2				○				
		ボランティア活動論		1	○							
	情報科学	情報科学		2	○							
		統計学		2		○						
		論理的思考	2			◎						
		基礎学習セミナー	1		◎							
	自然の理解	物理学		2		○						
		生物学		2	○							
		化学		2	○							
		生活環境論		1	○							
	語学の修得	英語Ⅰ（読む）	1			◎						
		英語Ⅱ（書く）	1				◎					
		英語Ⅲ（論文講読）		1								○
		英会話Ⅰ（日常英会話）	2		◎							
		英会話Ⅱ（看護英会話）	2			◎						
		英会話Ⅲ（海外研修）		1			○					
		韓国語		1	○							

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			◎						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		◎							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			◎						
		生化学	2		◎							
		栄養学	1			◎						
		疫学	2						◎			
		保健統計演習	2				◎					
		公衆衛生学	2			◎						
		疾病・治療学Ⅰ	1			◎						
		疾病・治療学Ⅱ	2				◎					
		疾病治療学特論	1						◎			
		薬理学	2				◎					
	環境と健康	微生物学	2			◎						
		保健医療福祉論	2				◎					
		保健医療福祉行政論	3						◎			
		保健医療社会学	1						◎			
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		◎							
		看護倫理	1			◎						
		看護技術概論	1		◎							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			◎						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2				◎					
		看護技術各論Ⅲ（ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ）	1				◎					
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1				◎					
		看護研究の基礎	2					◎				
		健康教育論	1					◎				
		基礎看護学実習Ⅰ	1		◎							
		基礎看護学実習Ⅱ	2					◎				
	地域看護学	地域看護学概論	2		◎							
		地域看護方法論	1				◎					
		家族看護学	1				◎					
		在宅看護論	2					◎				
		地域看護学実習	1		◎							
		在宅看護論実習	2							◎		
	成人看護学	成人看護学概論	1			◎						
		成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2					◎				
		成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2				◎					
		成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						◎			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							◎		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							◎		
	老年看護学	老年看護学概論	1				◎					
		老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					◎				
		老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						◎			
		老年看護学実習	3							◎		

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門教育科目	小児看護学	小児看護学概論	1				◎					
		小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					◎				
		小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						◎			
		小児看護学実習	2							◎		
	母性看護学	母性看護学概論	1				◎					
		母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					◎				
		母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						◎			
		母性看護学実習	2							◎		
	精神看護学	精神看護学概論	1				◎					
		精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					◎				
		精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						◎			
		精神看護学実習	2							◎		
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
		国際保健医療問題		1					○			
		国際看護実習		2					○			
		医療安全管理学	1					◎				
		看護管理学		1							○	
		スピリチュアルケア	2						◎			
		看護における補完療法		1								○
		看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○	
		災害看護学		1								○
		看護教育学		1								○
		卒業研究	4								◎	
		総合看護実習	2									◎
合　計			119	58								
卒　業　要　件			131単位以上									

4　保健師課程カリキュラム

表1-(2)

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4		◎							
		ﾐﾆｽﾄﾘｰ　ｵﾌﾞ　ﾋｰﾘﾝｸﾞ		2				○				
		アセンブリーⅠ	1		◎							
		アセンブリーⅡ	1				◎					
		アセンブリーⅢ	1						◎			
		アセンブリーⅣ	1								◎	
		キリスト教倫理		2			○					
		キリスト教音楽		1	○							
		ＳＤＡ教会史		2								○
		ﾊﾟｰｿﾅﾙ　ﾐﾆｽﾄﾘｰ		2								○
		ｸﾘｽﾁｬﾝ　ｻｰﾋﾞｽ		2								○
		現代とｷﾘｽﾄ教		2					○			
	人間の理解	哲学		2	○							
		心理学		2	○							
		人間関係論	2		◎							
		教育学		2	○							
		スポーツ科学		2	○							
	文化・社会の理解	社会学		2	○							
		文化人類学		2				○				
		歴史		2		○						
		経済学		2	○							
		異文化演習		1			○					
		美学		1		○						
		日本国憲法		2				○				
		ボランティア活動論		1	○							
	情報科学	情報科学		2	○							
		統計学		2		○						
		論理的思考	2			◎						
		基礎学習セミナー	1		◎							
	自然の理解	物理学		2		○						
		生物学		2	○							
		化学		2	○							
		生活環境論		1	○							
	語学の修得	英語Ⅰ（読む）	1			◎						
		英語Ⅱ（書く）	1				◎					
		英語Ⅲ（論文講読）		1								○
		英会話Ⅰ（日常英会話）	2		◎							
		英会話Ⅱ（看護英会話）	2			◎						
		英会話Ⅲ（海外研修）		1			○					
		韓国語		1	○							

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎教育科目	人間と健康	発達心理学	2			◎						
		人体の形態と機能Ⅰ	2		◎							
		人体の形態と機能Ⅱ	2			◎						
		生化学	2		◎							
		栄養学	1			◎						
		疫学	2						◎			
		保健統計演習	2				◎					
		公衆衛生学	2			◎						
		疾病・治療学Ⅰ	1			◎						
		疾病・治療学Ⅱ	2				◎					
		疾病治療学特論	1						◎			
		薬理学	2				◎					
	環境と健康	微生物学	2			◎						
		保健医療福祉論	2				◎					
		保健医療福祉行政論	3						◎			
		保健医療社会学	1						◎			
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2		◎							
		看護倫理	1			◎						
		看護技術概論	1		◎							
		看護技術各論Ⅰ（生活援助技術）	2			◎						
		看護技術各論Ⅱ（診療補助技術）	2				◎					
		看護技術各論Ⅲ（ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ）	1				◎					
		看護技術各論Ⅳ（看護過程）	1				◎					
		看護研究の基礎	2					◎				
		健康教育論	1					◎				
		基礎看護学実習Ⅰ	1		◎							
		基礎看護学実習Ⅱ	2					◎				
	地域看護学	地域看護学概論	2			◎						
		地域看護方法論	1				◎					
		家族看護学	1				◎					
		在宅看護論	2					◎				
		地域看護学実習	1		◎							
		在宅看護論実習	2							◎		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2						◎			
		公衆衛生看護活動展開論	2							◎		
		対象別支援技術論	2							◎		
		地域ケアシステム論	2								◎	
		公衆衛生看護管理論	2								◎	
		産業保健	1						◎			
		学校保健	1						◎			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	3								◎	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	1								◎	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）	1								◎	
	成人看護学	成人看護学概論	1			◎						
		成人看護方法論Ⅰ（急性期看護）	2					◎				
		成人看護方法論Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	2				◎					
		成人看護方法論Ⅲ（終末期看護）	1						◎			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期看護）	3							◎		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・機能回復期看護）	3							◎		

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門教育科目	老年看護学	老年看護学概論	1				◎					
		老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					◎				
		老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						◎			
		老年看護学実習	3							◎		
	小児看護学	小児看護学概論	1				◎					
		小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					◎				
		小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						◎			
		小児看護学実習	2							◎		
	母性看護学	母性看護学概論	1				◎					
		母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					◎				
		母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						◎			
		母性看護学実習	2							◎		
	精神看護学	精神看護学概論	1				◎					
		精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					◎				
		精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						◎			
		精神看護学実習	2							◎		
	看護の発展科目	国際看護論		2					○			
		国際保健医療問題		1					○			
		国際看護実習		2					○			
		医療安全管理学	1					◎				
		看護管理学		1							○	
		スピリチュアルケア	2						◎			
		看護における補完療法		1								○
		看護診断・成果・介入のリンケージ		1							○	
		災害看護学		1								○
		看護教育学		1								○
		卒業研究	4								◎	
		総合看護実習	2									◎
合　計			136	58								
保健師国家試験受験資格必要単位数			143単位以上									

5　卒業要件等について

1．本学部での卒業資格を得るためには、学則で定められた修業年限の期間在学し、卒業認定に必要な単位を取得しなければなりません。

２．卒業認定に必要な単位数（卒業要件）は、課程によって異なります。詳細は、次の通りとなっています。

１）看護師課程で卒業する場合は、表２-（１）に示される１３１単位以上を取得すると卒業が認定されます。

２）３年次に保健師課程を選択し保健師課程で卒業する場合は、表２－（２）に示される１４３単位以上を取得すると卒業が認定されます。

３．当該年度の「開講科目一覧」（表４参照）から、卒業認定に必要な単位を計画的に履修しなければなりません。ただし，実習科目についての詳細，実習のグループ編成等は，別に発表します。

表２－（１）　　卒業要件（看護師課程）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>必修科目履修単位</th><th>計</th><th>選択科目履修単位</th></tr>
<tr><td rowspan="6">教養教育科目</td><td>アドベンチストの信仰と生活</td><td>８単位</td><td rowspan="6">１９単位</td><td>２単位以上</td><td rowspan="6">２６単位以上</td></tr>
<tr><td>人間の理解</td><td>２単位</td><td rowspan="5">５単位以上</td></tr>
<tr><td>文化・社会の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>情報科学</td><td>３単位</td></tr>
<tr><td>自然の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>語学の修得</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基礎教育科目</td><td>人間と健康</td><td>２１単位</td><td rowspan="2">２９単位</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">２９単位以上</td></tr>
<tr><td>環境と健康</td><td>８単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td>基礎看護学</td><td>１６単位</td><td rowspan="9">７１単位</td><td rowspan="8"></td><td rowspan="9">７６単位以上</td></tr>
<tr><td>地域看護学</td><td>９単位</td></tr>
<tr><td>成人看護学</td><td>１２単位</td></tr>
<tr><td>老年看護学</td><td>７単位</td></tr>
<tr><td>小児看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>母性看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>精神看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>看護の発展科目</td><td>９単位</td><td>５単位以上</td></tr>
<tr><td>計</td><td></td><td colspan="2">１１９単位</td><td>１２単位以上</td><td>１３１単位以上</td></tr>
</table>

表２－（２）　　卒業要件（保健師課程）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>必修科目履修単位</th><th>計</th><th>選択科目履修単位</th></tr>
<tr><td rowspan="6">教養教育科目</td><td>アドベンチストの信仰と生活</td><td>８単位</td><td rowspan="6">１９単位</td><td>２単位以上</td><td rowspan="6">２６単位以上</td></tr>
<tr><td>人間の理解</td><td>２単位</td><td rowspan="5">５単位以上</td></tr>
<tr><td>文化・社会の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>情報科学</td><td>３単位</td></tr>
<tr><td>自然の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>語学の修得</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基礎教育科目</td><td>人間と健康</td><td>２１単位</td><td rowspan="2">２９単位</td><td rowspan="2">自由に選択</td><td rowspan="2">２９単位以上</td></tr>
<tr><td>健康と環境</td><td>８単位</td></tr>
<tr><td rowspan="10">専門教育科目</td><td>基礎看護学</td><td>１６単位</td><td rowspan="10">８８単位</td><td rowspan="9"></td><td rowspan="10">８８単位以上</td></tr>
<tr><td>地域看護学</td><td>９単位</td></tr>
<tr><td>公衆衛生看護学</td><td>１７単位</td></tr>
<tr><td>成人看護学</td><td>１２単位</td></tr>
<tr><td>老年看護学</td><td>７単位</td></tr>
<tr><td>小児看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>母性看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>精神看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>看護の発展科目</td><td>９単位</td><td>自由に選択</td></tr>
<tr><td>計</td><td></td><td colspan="2">１３６単位</td><td>７単位以上</td><td>１４３単位以上</td></tr>
</table>

４．卒業した者に、卒業証書及び学士（看護学）の学位が授与されます。

５．取得資格

【看護師課程カリキュラム適用】[表２－(１)]

看護師課程カリキュラムには、看護師国家試験受験資格を得るための教育内容と単位数が、すべて含まれています。従って、本学の卒業要件を満たすと看護師国家試験受験資格が得られます。

【保健師課程カリキュラム適用】[表２－(２)]

保健師課程カリキュラムには、看護師及び保健師国家試験受験資格を得るための教育内容と単位数が、すべて含まれています。従って、本学の卒業要件を満たすと看護師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格が得られます。

６．看護師と保健師の国家試験は、４年次後期の２月に行われます。１年次から、

４年次後期２月の国家試験受験を念頭に置いて学修してください。
看護師免許を取得しないと保健師国家試験に合格しても保健師免許は交付されません。

７．　履修計画の留意点

１）当該年度開講の科目一覧（表４）から、卒業認定に必要な単位を計画的に履修してください。

２）修業年限期間中の同一の科目の履修は、２回までです。従って、必修科目の成績評価が２回「不可」となると卒業できません。

３）実習科目の履修要件

【２年次「基礎看護学実習Ⅱ」】
基礎看護学実習Ⅰ・看護学概論・看護技術概論、看護技術各論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの単位を取得していること。

【３年次「領域別実習（在宅、成人Ⅰ・Ⅱ、老年、小児、母性、精神）」】
３年前期までの全ての必修科目単位を取得していること。

【４年次「総合看護実習」】
総合看護実習以外の全ての実習単位を取得していること。

※「領域別実習（在宅、成人Ⅰ・Ⅱ、老年、小児、母性、精神）」（３年次登録科目）は、いずれの実習科目においても、成績評価が不可になった場合の再履修は当該年度では認められません。

４）養護教諭免許申請を希望する場合

保健師免許を基礎資格として、卒業後に養護教諭２種免許を申請することを希望する者は、教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる４科目を表３の通り履修してください。これらの科目は１年次２年次に開講されていますので保健師課程に進むことが未定であっても可能性がある場合には履修してください。

単位取得の証明は、単位取得証明書に「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる科目の単位」として記載されます。

表３　　教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる科目

教育職員免許法施行規則に定める科　目		左記に対応する三育学院大学の授　業　科　目		授業を行う年次・期	必修・選択の別
科　目　名	単位数	科　目　名	単位数		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	２年・後期	選択
体　　育	2	スポーツ科学	2	１年・通年	選択
外国語コミュニケーション	2	英会話Ⅰ	2	１年・前期	必修
		英会話Ⅱ	2	１年・後期	必修
情報機器の操作	2	情報科学	2	１年・通年	選択
法定単位数合計	8	単位数合計	１０		

８．学年

３年次前期終了までに、所定の単位（１年次から３年次前期までの必修科目単位の全て）を取得していない場合は、翌年も３年次とします。（教務規定第４条）

6　単位の計算方法

本学の教育課程は、単位制を採用しています。単位制とは、卒業要件を取得単位数で表す制度です。科目ごとに単位数が決められています。

講義・演習は、１５時間～３０時間の授業をもって１単位、実習は、４５時間の授業をもって１単位です。（学則第９条）

7　履修登録について

授業科目を決めて授業を受けることを履修するといいます。授業は、勝手に自分で選んで教室に行けばよいというものではありません。決まった手続きをした上でないと授業科目の履修はできません。この手続きを「履修登録」といいます。

履修する科目（必修科目・選択科目）は、すべて自分で登録しなければなりません。履修登録を怠ると、授業に出席していても試験が受けられず、単位認定もされ

ません。

履修登録は年度始めの指定日に必ず行ってください。一度登録した科目は、必ず受講し、試験を受けなければなりません。（教務規程第１４条）

１．卒業認定に必要な単位を、各課程のカリキュラム[表１－(１)～表１－(２)]および「卒業要件」[表２－(１)～表２－(２)]で確認し、計画的に履修してください。

２．必修科目について、配当されている年次に必ず履修してください。１年次配当の必修科目を１年次で履修しないと２年次になってから２年次配当の必修科目と時間割が重なり履修できなくなります。その場合、４年間で卒業認定に必要な単位が取得できなくなることがあります。

３．選択科目について、「カリキュラムの構成」と「卒業要件」[表２－(１)～表２－(２)]を熟読し、以下の点に留意して履修する科目を決定してください。教養教育科目の科目群≪アドベンチストの信仰と生活≫から、必修科目と選択科目をあわせて<u>１０単位以上</u>を履修しなければなりません。

４．一度単位が認定された科目の再履修はできません。「キリスト教音楽」（聖歌隊）を２年続けて履修したい場合、２年目は聴講の登録を行ってください。

５．同一年度内に同一科目を２度履修することはできません。但し、領域別実習科目は一部４年次（４．５月）に実習が行なわれますが全て３年次後期科目とします。

８　履修登録の手引

Ａ．　時間割について

１．時間割をよくみて選択科目を選んで履修して下さい。科目によっては不定期な曜日、時限に開講されるので、注意してください。

２．科目名の後に「Ａ」、「Ｂ」と記されているのはグループ分け等を意味するもので、同一科目です。従って重複して履修することはできません。

３．次の科目（実習以外）は通年科目ですので１年を通して履修しなければなりません。

アセンブリーⅢ・Ⅳ、保健医療福祉論、看護技術各論Ⅱ、卒業研究

Ｂ．履修方法について

授業科目は、学年ごとに開講する科目が決まっています。当該年度開講科目一覧（表４～表６）から、卒業に必要な履修単位を計画的に履修しなければなりません。科目内容は、授業概要(シラバス)を参照してください。

以下に、特に履修するときの注意点について説明します。

１）授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければなりません。開講年次で履修してください。

②選択科目：自由に選んで履修できます。

２）授業科目は、条件が許せば全て履修することができます。

３）履修登録をしていない授業科目（未登録科目）は、単位が認められません。また、登録が間違っていた場合も単位が認められません。充分注意して下さい。

４）上級の学年の授業を、下級の学年の学生は履修できません。

５）同じ時限に、２つ以上の授業科目を履修することはできません。履修登録の際も、間違って同じ時限に２つ以上を登録しないよう注意して下さい。

６）１年間（通年）の授業の前期または後期だけを受講しただけでは、単位は認められません。次の科目（実習以外）は、通年科目ですので一年（前・後期）を通して履修しなければなりません。

必修通年科目：アセンブリーⅢ・Ⅳ、保健医療福祉論、看護技術各論Ⅱ、卒業研究

７）履修登録した授業科目は、許可無く変更できません。

８）一度単位を取得した授業科目は、再履修できません。しかし、単位を取得できなかった科目は、条件が許せば再履修できます。

９）履修申請を書類で提出された際は、原則として返却しませんので必ず本人が

控えを保管してください。

C．履修登録についての諸注意

1．卒業に必要な単位を取得することに関しての全責任は本人にあります。履修要項、配布された印刷物、掲示板の発表等に十分注意して、各々の時期に必要な手続きを行って下さい。

2．前期（４月）の登録は、今年度１年分を登録しますが、後期の科目については後期初めにも変更（追加、取消）の手続きをすることができます。

D．履修登録及び労作登録の手順

1．学年別履修登録説明会

1）学年毎に担当教員より詳しい説明を聞きます。不明な点は質問し、十分確かめて下さい。

2）すでに配布された印刷物に記されている事柄の訂正や、新たな発表及び大切な説明がありますので履修要綱を持参の上、全員必ず出席して下さい。

3）時間及び場所は「オリエンテーションスケジュール」で確認してください。

2．履修登録受付まで（事前準備）

1）時間割、履修要項等をよく読み、特に選択科目については、卒業要件や、自分の希望する資格(保健師課程の養護教諭２種免許に必要な科目)、履修忘れ等無いように注意してください。

(教務システムの変更に伴い、それぞれの学年での必修科目については、あらかじめ学校側で登録する予定です。)

３．履修登録受付

１）申請方法：ポータルサイトを使用します。それぞれのパソコン等からアクセスしてください。

申請期間：オリエンテーションスケジュール等で案内します。

２）履修登録についての教務課相談時間

各学年、学科毎に教務課での相談時間を設けます。オリエンテーションスケジュールでご確認ください。

３）他学年、他学科科目の履修登録

システム上に科目が見つからない、登録できない等があった場合は教務課にご相談ください。

４．履修登録確認及び履修登録変更

１）履修登録を行った後は、教務課から提供される履修一覧表の用紙 及び ポータルサイトからご自分の履修科目を確認してください。この確認を怠ったため、後に不利益が発生した場合は、全て本人の責任となりますので注意して下さい。

２）履修登録後、履修追加、履修取消の希望がある場合は、指定された「履修登録変更日」にポータルサイトにて変更手続きを行ってください。

３）登録追加予定の科目は追加手続きを行う前でも授業に出席して下さい。この期間の授業の出欠席も回数に数えられますので、名前が呼ばれない場合は、必ず担当教員に申し出て出席を記録してもらって下さい。

４）履修登録変更を行った際は、ポータルサイトからご自分の履修科目を確認し、内容に誤りがないか確認して下さい。

Ｅ．音楽、英会話及び茶道レッスンについて

上記各レッスン希望者は「学生ハンドブック」の案内をよく読んで、所定の用紙により教務課に申し込んで下さい。

○レッスン時間やレッスン料についての説明、レッスン申込書の配布等がありますので、指定された日時に、グレンジャー講堂に集合して下さい。

後日教務課に申込書を提出して頂きます。

○音楽、英会話レッスンは、申込書提出後、レッスン時間を決定します。

Ｆ．こんな時は教務課へ

次のような時には、遠慮なく教務課においで下さい。

１．履修科目、単位、成績、卒業等についての質問がある時

２．他大学等で取得した単位の認定をしてもらいたい時［単位取得証明書、認定希望科目の授業内容（シラバス）が必要です。］

３．休学、退学をしたい時

４．学生証を紛失した時

５．追試験、再試験を受ける時

６．次のような証明書を発行してもらいたい時

○在学証明書　　○学生運賃割引証（学割）

○在学居住証明書（寮生のみ）　　○通学証明書（通学定期券購入のため）

○卒業見込証明書　　○成績証明書

７．住所変更その他、自分や家族に一身上の変更があった時

８．忌引、公欠等の届出が必要になった時

９．グループ活動等で教室を使用したい時

10．各種レッスンの申込みまたは取消しをしたい時

９　授業について

１．　履修期間

本学では、２つの履修期間（前期・後期）に分けて、授業と試験を行い、成績評価と単位認定を行います。各科目は履修期間によって次のいずれかに該当します。

【通年科目】１年間３０週にわたり履修する科目

【前期の科目】前期（４月～９月）１５週にわたり履修する科目

【後期の科目】後期（１０月～３月）１５週にわたり履修する科目

※定期試験は履修期間に含まれません。(通常、１６週目に行います。)

２．　授業時間

１講義は９０分です。但し、バイブルウィーク中の１時限・２時限は４５分となります。

各時限の授業時間は下記の通りです。実習の場合には、実習時間が別に定められます。

授業時間

時　限	時　　間
１時限	８：５０～１０：２０
２時限	１０：３０～１２：００
３時限	１２：５０～１４：２０
４時限	１４：３０～１６：００
５時限	１６：１０～１７：４０

３．　休講

担当の教員がやむを得ない理由で授業を休講することがあります。連絡が入り次第、掲示板などでお知らせします。

また、休講の連絡がなく、授業開始から２０分経過しても開講されない場合は、教務課に連絡して指示をもらってください。

１０　試験・成績について

履修した科目の単位認定は、試験の結果、その科目が合格と認定された場合に所定の単位が与えられます。

１．　試験の種類

１）定期試験　前期・後期の各学期末に期日を決めて行われる試験。

２）追試験　病気その他やむを得ない理由で試験に欠席した者に対して行う試験。

３）再試験　定期試験等で保留となった場合に行う試験。

２．　受験資格

受験資格は次の通りです。受験資格のない者が試験を受けても無効となり、

単位を与えられません。

1） 履修登録をしていること。

2） 欠席時間が所定の授業時間数の４分の１未満であること。欠席時間が４分の１を超えた場合、単位取得資格を失う。

3） 当該学期の授業料を納入していること。

4） 試験方法がレポートの場合は、指定されたレポート用紙に書いて、定められた日時、指定された方法で提出しなければ受理されない。

３．成績の評価

教養教育科目、専門基礎教育科目および専門教育科目にかかわる試験等の評価は下記の通りです。

評　　価		単位認定
１００～９０点	S	合　格
８９～８０	A	
７９～７０	B	
６９～６０	C	
５９以下	D	不　合　格

定期試験要項

1）遅刻した場合、試験開始後２０分までは入室・受験できる。試験開始後３０分までは退室できない。ただし、監督者が別に指示した場合はそれに従う。

2）教室では監督者の指示通りに着席する。

3）試験中、机上には筆記用具および持込みを許可されたもの以外は置かない。筆箱・下敷を含むその他の携帯品は指定された場所に置く。

4）試験中､用事があるときは､挙手をしてその意を監督者に伝えその指示に従う。

5）試験終了者は、机上に答案用紙を裏返して残し、直ちに退室する。

6）以下の行為を不正行為とみなし、それを行った場合、当該学期の全科目に不可の評点を与え、２週間以上の停学に付する。

ⅰ　机、掌、着衣等に書込みをすること。

ⅱ　試験中、持込みを許可されていないメモ、ノート、教科書、参考書等を参照すること。

ⅲ　試験中、他人の答案をのぞき見て写したり、写させたりすること。

ⅳ　試験中、私語をすること。

ⅴ　試験中、物品の貸借をすること。
ⅵ　試験中、みだりに座席を離れること。
ⅶ　その他上記に類する行為をすること。

７）その他、試験中はすべて監督者の指示に従う。従わない場合、監督者は退場を命ずることができる。

８）上記規定は平常の試験にも準用する。

ＧＰＡ（Grade　Point　Average）

在学中の成績を積算し、総点を総単位で除した平均値を GPA といいます。在学中の全ての成績から算出した GPA を総合 GPA、単年度の成績から算出した GPA を学年 GPA と区別することもあります。区別されないで GPA と表記された場合は総合 GPA を指します。

GPA=総点÷総単位

総点＝（科目ポイント×科目単位）を積算したもの

※科目ポイントは、S(100～90 点）の成績を 4 ポイント、A(89～80 点）の成績を 3 ポイント、B(79～70 点）の成績を 2 ポイント、C(69～60 点）の成績を 1 ポイント、D(60 点未満）の成績を 0 ポイントとします。

総単位＝履修科目の単位数合計

〈GPA の活用〉

アドベンチスト協議会病院奨学金審査、学修指導、保健師課程選考基準等に活用されます。また、成績証明書に記載されます。

〈履修の取り下げ〉

GPA 維持のために科目履修を取り消したい場合は、その科目の授業回数 1/2 を過ぎる前に履修取消願を教務課に提出しなければなりません。但し、実習には適応されません。

１１．　４年次開講科目及びシラバス

開講科目一覧

表4　　4年次

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
教養教育科目	ＳＤＡの信仰と生活	アセンブリーⅣ	1	必			1	東出　克己	
		ＳＤＡ教会史	2	選		2		藤田　佳大	
		パーソナルミニストリー	2	選		2		杉　正純	
		クリスチャンサービス	2	選		2		杉　正純	
	語学の修得	英語Ⅲ（論文講読）	1	選		1		新妻　規恵	
専門教育科目	看護の発展科目	看護管理学（オムニバス）	1	選	1			村上　寛 平野　美理香 澤間　泰子	東京
		看護における補完療法	1	選		1			2022年度開講せず
		看護診断・成果・介入のリンケーシ゛	1	選	1			本郷　久美子	東京
		災害看護学	1	選		1		齋藤　正子	
		看護教育学	1	選		1		後藤　佳子	
		卒業研究	4	必			4	今野　玲子他	
		総合看護実習	2	必		2		今野　玲子他	

≪保健師課程カリキュラム選択者≫

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
専門教育科目	公衆衛生看護学	地域ケアシステム論	2	必	2			浦橋　久美子	
		公衆衛生看護管理論	2	必	2			佐藤　壽子	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	3	必	3			浦橋　久美子 佐藤　壽子 手塚　早苗	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健所）	1	必	1			浦橋　久美子 佐藤　壽子 手塚　早苗	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業・学校保健）	1	必	1			浦橋　久美子 佐藤　壽子 手塚　早苗	